

西部の王者 (1944)

BUFFALO BILL

メディア 映画

ジャンル 西部劇

製作国 アメリカ

時間 90分

初公開日 1950/12/28

公開情報 セントラル

【解説】

「ビッグ・アメリカン」ではポール・ニューマンが演じておなじみの、“ワイルド・ウェスト・ショウ”の創始者バッファロー・ビルことW=F・コーディの後半生を、特に、彼がいよいよながらもインディアン掃討の先鋒を担がされた時期に焦点を当てて描いた、見応えのある西部劇大作。開巻、襲われた幌馬車には上院議員とその娘ルーザ（オハラ）が乗っており、それを救けたビルは、早速、晚餐の招待を受ける。文盲なので小学校教師をするインディアン娘（L・ダーネル）の黒板に書くままを手紙にしたため赴いた宴席で、デザートを皿の敷布ごと喰ってしまい困った彼に、落としたスプーンを拾わせ、その瞬間に吐き出させ、恥をかかせぬヒロインの女心に参ってしまった。全編そんな調子で暖かく、格調高いのである。監督ウェルマンはインディアンに対するまなざしも穏やかで、ビルは彼らの心を知るヒューマニストとして描かれ、シャイアの族長の息子イエローハンド（A・クイン）はその親友で知的で威厳に充ちている。その妹のダーネルの、ビルへの横恋慕で忍んだルイズ家でのやりとりも差別問題を視座に置いた説得力ある場面。一座は土地をめぐる争いでの議員誘拐で、そして更にはバッファローの乱獲（これが正面きって取り沙汰されたのは本作が初めてではないか）で対立せざるを得なかった親友同士の格闘は凄い迫力。ここでははっきりと白人＝悪の構図が示されての涙の大河での大合戦絵巻となる。その後、東部へ舞台を移しての描写はいささか駆け足で大幅に缺を入れられた気配も漂う（ラスト、引退興行の場面でいきなり意味あり気な少年がワンカット登場）。が、ヒロインをテクニカラーの女王が演じたお蔭で、西部劇には美しすぎるL・シャムロイの撮影が何より“お宝”で、インディアンの装束、落ちぶれたビルが足を運ぶ遊園地の描写など実に眼福だった。

【クレジット】

監督	ウィリアム・A・ウェルマン	William A. Wellman
製作	ハリー・シャーマン	Harry Sherman
原作	フランク・ウィンチ	
脚本	イーニマス・マッケンジー	Aeneas MacKenzie
	クレメンス・リプレー	Clements Ripley
	セシル・クレイマー	Cecile Kramer
撮影	レオン・シャムロイ	Leon Shamroy
音楽	デヴィッド・バトルフ	David Buttolph
出演	ジョエル・マクリー	Joel McCrea
	モーリン・オハラ	Maureen O'Hara
	リンダ・ダーネル	Linda Darnell
	トーマス・ミッチェル	Thomas Mitchell
	アンソニー・クイン	Anthony Quinn
	エドガー・ブキャナン	Edgar Buchanan
	チーフ・サンダークラウド	Chief Thundercloud

